

八万中学校 「学力向上実行プラン」

研究テーマ

「生きる力につながる学力向上を目指して」
①基礎学力の向上に向けた授業実践の工夫
②家庭学習習慣の確立

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	校長	山口 麻里	研修主任	天羽 和恵・榎井美保
天羽 和恵		教頭	吉田 光宏	1学年主任	浜崎 加代
榎井 美保		教頭	岩野 伸哉	2学年主任	梶原 秀文
		教務主任	長楽真裕美	3学年主任	榎井 美保

校長

山口 麻里



(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ	授業に対する取り組みは大変真面目である。授業中に指示されたことは誠実にやり遂げようと努力できる生徒が多い。	「課題を確実に提出している」を90%以上にする。	課題を確実に提出している生徒が多いが、課題のやり方も含め、教員の声かけや課題の出し方の工夫で改善できると思われる。さらなる継続的な指導が必要である。	①小テストや前時のふり返りの時間を活用して基礎・基本の定着を図った。 ②課題の出し方について、提出内容を細かく提示したり、提出日を繰り返し伝えるなどの工夫を行った。	①「授業を通して基礎的な知識や技術を身につけることができる」生徒は89%であった。 ②「課題の出し方を工夫している」教員は97%であった。
課 題	授業中は真面目に取り組むが、自らの意思で学習に取り組む意欲の低い生徒も少なくない。また、課題を提出することが目的となっており、課題が学力の定着と繋がっていない生徒が多い。	①授業中に基礎基本定着のための時間を確保するように工夫する。 ②「課題の出し方を工夫している」を90%以上にする。		評価	次年度における改善事項
	具体的方策(教員の取組)	取組指標		B	基礎基本が身につけていると感じている生徒が多いが、テストの解答や授業の様子から、さらなる知識の定着が必要である。課題の提出も習慣化している生徒がほとんどであるが、提出することが目的になっており、学力の定着にはつながっていない。学力の定着のために課題の出し方を継続して工夫していくべきである。授業中に達成感が味わえる活動や課題の内容をテストに出して、自分ができることを自覚させ、諦めさせない取り組みも必要である。

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ	友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意であると考えている生徒は多い。良好な人間関係の中で学習を進めることができている。	自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりするのが得意」を70%以上にする。	ペア学習やグループ学習を積極的に取り入れた授業を展開することができている。その中で自分の意見や考えと述べる機会をさらに多く確保している必要がある。	①ペア学習やグループ活動を通して、生徒同士の教え合い、学び合いの場面を設定した。 ②学んだ知識を次の授業で活用できるための工夫や準備を行った。	①「自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは得意である」生徒は44%であった。 ②「生徒が学んだ知識を活用できるようになるために、工夫や準備をしている」教員は91%であった。
課 題	昨年度の分析から、「相手に分かりやすいように語句を選択して話す」や「文章の構成を工夫して分かりやすく書く」ことを苦手とする生徒が多い。分かりやすく伝えるための方策や相手の意見を受け止めてさらに学びを深めるなどの手法をさらに習得する必要がある。	①「生徒が学んだ知識を活用できるようになるために工夫や準備をしている」を90%以上にする。 ②ペア学習・グループ学習を積極的に取り入れる。		評価	次年度における改善事項
	具体的方策(教員の取組)	取組指標		B	自分の考えを説明したり、文章に書いたりすることが不得意だと感じている生徒が50%以上いる。ペア学習やグループ活動を通して、伝え合う活動を取り入れ、自分の考えや意見を伝えたり、書いたりする表現活動を行うなど、さらなる授業改善が必要である。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ	チャイムが鳴る前に授業の準備をし、着席する習慣が身につけており、授業を大切にしている習慣が定着している。	「チャイム着席を自分の意思でできている」、「家で1時間以上自分で勉強している」を80%以上にする。	生徒が学習している内容を理解できるようにめあてを提示し、ふり返りの時間を設定することができる。すべての時間で継続して続けていく。チャイム着席を生徒が主体的にできるように継続して指導を行う。	「チャイムと共に授業が始められるように工夫している」教員は100%となった。休み時間に次の教科の準備をして、生徒自らの意思でチャイム着席ができるような声かけを継続して行った。	「授業準備をしてチャイム着席ができる」生徒が92%で、「自分の意思でできている」生徒が83%であった。「家で1時間以上自分で勉強している」生徒が75%であった。
課 題	自らの課題を見つけ、その克服に向けて長期的に努力することは苦手である。家庭学習の習慣も十分についておらず、与えられた課題を仕上げることで精一杯の生徒も多い。	①「チャイム着席+」を実行する。 ②前時のふり返りの時間を取り、学習内容を振り返らせる。また、本時の学習のめあてを把握させ、授業の最後5分を用いて振り返りの時間を毎時間設定する。		評価	次年度における改善事項
	具体的方策(教員の取組)	取組指標		B	チャイム着席を生徒たち自身の意思でできるような指導がさらに必要である。97%の教員が家庭学習の重要性を認識させる指導をしているが、家庭学習の習慣がしっかりと身につけている生徒の率は低い。授業内容を毎時間理解させ、振り返りができる課題を出すなどの工夫をし、家庭とも連携を図り、家庭学習の習慣を身につけさせることが必要である。来年度は、親子で生活を見直し、家庭学習の時間を確保するためにキャリアパスポートなどを利用するように啓発していく必要がある。

平成31年度 学力向上ロードマップ

